

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2674100272		
法人名	社会福祉法人 洛和福祉会		
事業所名	洛和グループホーム音羽		
所在地	京都府京都市山科区音羽森回り町34-8		
自己評価作成日	平成22年9月10日	評価結果市町村受理日	平成23年1月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo_kvoshakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2674100272&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成22年10月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小学校の入学式・卒業式・運動会などへ出席し、また、音羽新聞を配布したりと交流を行っている。地域にも音羽新聞を配布し、区民運動会・地域のお祭りへ行ったり交流を行っている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新築の明るく広いスペースが確保されたホームに移転し新たな生活を始めています。管理者を中心に職員のチームワークが良く、話し合うことで互いを理解し、個々の提案がケアに活かされています。利用者に対しては傾聴に徹し、何を求めているのかを追求しながら、利用者本位の生活が送れるよう支援しています。また地域にはホーム新聞を回覧板に載せ見てもらい、ホームを知ってもらおうと共に、隣接の小学校や交番、区役所にも届け、小学校からも運動会の招待をもらうなど、交流が図られています。新たな試みとして地域に向けての認知症サポーター講座を近々開催されるなど、認知症の理解を深める取り組みがなされています。理念を大切に、職員の思いが一つになり、地域と共に利用者を支えているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域と共に支え合い思いやりの介護を提供します」と事情所理念をつくり玄関に掲げ共有している	法人の理念をもとに、職員間で話し合い、利用者本位の生活を地域と共に支えていくことを目的とした独自の理念を作り上げている。広報誌に掲載し、地域にも知らせ、カンファレンスでは利用者が何を求めているかを話し合い、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者との散歩時など隣近所の方々と挨拶し、地域の行事(お祭り・区民運動会・小学校の入学式・卒業式など)への参加やGH新聞を配布し交流に努めている	本人や家族の同意を得て、ホーム新聞を回覧板で地域に見てもらっている。また交番や小学校にも利用者と共に届け、小学校の運動会に参加したり、体験学習を受け入れるなど交流を図っている。琴や三味線等地域のボランティアも受け入れている。近々地域に向けて認知症サポーター講座を開催する予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて意見交流を行ったり、日々の散歩などから理解に努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議には町内会長、前町内会長、民生委員、地域包括の職員が参加しサービスの実際の報告や相談を行い意見交流をしている	運営推進会議では、ホームから現状や行事等様々な報告がなされる他、参加者から地域の情報を得たり、地域と共に認知症を理解する取り組みについて検討している。後日議事録は参加者や家族に配布されている。開催日時等の都合もあり、現在は家族の参加が得られていない。	開催日時を変更したり、行事の際に運営推進会議を開催するなど工夫され、家族の参加をも得て、多くの意見が運営に反映されるような取り組みが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への案内や議事録は出しているが行政職員の参加へは至っていない	運営推進会議の議事録は毎回行政に郵送し、ホーム新聞を毎月区の担当者に持参し、ホームを知ってもらう取り組みを行っている。何かあれば、法人の担当者が窓口に出向き、相談にのってもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	洛和会の全体研修に参加、日々のケアからも意識づけを行っており身体拘束は行っていない。玄関は夜間のみ防犯予防のために施錠しているが日中は行っていない	カンファレンスの際に、管理者は利用者の行動を妨げる行為は全て身体拘束にあたることを職員に説明し、正しい理解を促している。日中は鍵をかけないケアを実践し、階下のデイサービスとも自由に行き来している。外に出たい時は職員が散歩や買い物等に同行している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても洛和会の全体研修に参加し、日々のケアの中からやカンファレンスで職員の意識づけに努めている		

洛和グループホーム音羽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性を話し合い活用できるよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明を行うよう心がけ、理解・納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回アンケートの実施や玄関に意見箱を設置している。また、日頃の面会時や電話などからさりげなく意見を聞きケアに反映している	家族の来所時や行事に来られた際に意見を聞いたり、面会が難しい方には電話等で意見を聞いている。また法人の満足度調査を定期的に行い、家族の意見を運営に反映している。出された意見は職員間で検討し、対応策はホーム新聞や運営推進会議の議事録の中で報告している。	家族が行事に参加される際などを利用して、家族だけで話合ったり、職員と意見交換する時間を設けてはいかがでしょうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスにて職員の意見や話し合う機会を設けている。また、日々の関わりの中からも職員の意見を聞くように心がけている	毎月のカンファレンスは、個々の意見や提案を聞き、全員で話し合いケアに取り入れている。また自己の目標や希望が書かれた自己申告書をもとに管理者と面談の機会を設けている。管理者は日々のコミュニケーションを通じ、何でも言える関係作りを心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	アンケートや日々の関わりの中から職員個々の状況を把握し、面談やその都度声かけを行い向上心を持って働けるよう心がけている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々のケアや力量評価にて職員の力量を把握し法人内外の研修を受ける機会の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での行事に参加したり会議などで交流を図り意見交流やサービスの質の向上に努めている。また、グループホーム協議会へも参加し交流に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人や家族より不安や要望を伺い、情報収集を行い安心した生活が送れるような関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族より不安や要望を伺い関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談員と共に事前に面談をし、情報収集を行うことで必要としている支援の見極めに努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る限る共に家事を行い利用者・職員が共に支えあえるような関係づくりを築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも面会へ来てもらえるよう声掛けを行い、行事への参加など家事の協力や情報を得ながら共に支えていく関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人の面会や、なじみのお店、場所等へ行き関係が途切れないように支援している	知人、友人がホームを訪ねてきたり、行きつけの店へ化粧品を買いに出かけるなどしている。家族からも情報を得て比叡山や円山公園など、馴染みの場所にドライブに出かけることもある。また墓参りや親族の見舞い、外食等家族との外出を支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、孤立しないよう日頃に会話や家事などで互いに関わり合い支えあえるような支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて連絡や声掛けなど行き情報を共有している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式や日々の関わりの中から思いや希望の把握に努め、その人らしく過ごせるよう本人本位に話し合っている	入居時、以前の生活や好み等の情報はセンター方式を利用して記入している。コミュニケーションを大切に、さりげない言葉や表情、行動から利用者が求めていることの把握に努めている。情報は日々の介護記録に記載して職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式や本人、家族から情報を収集し把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式や日々の関わりの中から、記録などで現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	より良く暮らせるよう本人や家族から意見を聞き、カンファレンスなどで話し合い現状に即した介護計画作りに努めている	利用者や家族の希望をもとにカンファレンスを開催し、ケアプランの原案を作成し、医師や看護師の意見を加味してさらに検証されケアプランを作り上げている。プランは3ヶ月毎に評価し、変化がなければ6ヶ月毎に更新されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入や申し送りにて職員間で共有している。また、ADLの変化などがあればカンファレンスで話し合い介護計画の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り安全に配慮しながら支援に繋げている		

洛和グループホーム音羽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて情報収集に努め小学校や地域の行事へ参加している。また、小学校の体験学習を受け入れる予定である		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回往診があり、体調の変化や急変時など電話で相談をし適切な医療が受けられるよう支援している	入居時に相談し往診が可能であれば、それぞれのかかりつけ医を継続してもらっている。協力医は定期的な往診の他、夜間や緊急時の対応も可能な連携体制が築かれている。必要な方は週に一度の歯科医の往診を受けることができる。週に一度訪問看護師が来訪し日々の健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、訪問看護師による体調チェックがある。また、体調の変化など何かあれば電話で相談し往診医とも連携している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員、グループホームの相談員と情報の交換、共有を図り早期退院できるよう連携している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの方針については話し合いを行い、家族・往診医・訪問看護師と情報を共有している	入居時に看取り指針を説明し同意を得ている。時期が来れば家族の希望を聞き、医師とも相談しながら個々の利用者にとっての最良の方法を検討し対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員は普通救急救命を受講し実践力を身に付けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に1回消防訓練や年に1回、消防署と共に訓練を行い指導・アドバイスを受けている。地域には運営推進会議にて伝え、交番には音羽新聞を配布している	年に2回消防署の指導を受けて避難訓練を開催している。ホーム独自でも2ヶ月毎に昼夜を想定した避難訓練を実施している。結果は運営推進会議やホーム新聞に載せ、地域にも知らせている。また地域の防災訓練に利用者と職員が参加している。	いざという時の地域の協力を得るために、運営推進会議の際に避難訓練を行ったり、回覧板を通じて地域の参加を呼びかけてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように対応している。カンファレンスや日頃より職員間で話し合いアドバイスを行っている	職員は利用者がこれまでの経験や人格を尊重し、傾聴に徹し利用者本位の対応を心がけている。誘導の際もアイコンタクト等で他の人に解らないよう配慮している。また不適切な言動があった場合には管理者がその都度注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で希望を確認したり、選択できる機会をつくり自己決定できるよう支援している。また、日頃の関わりの中からや、家族から情報を収集している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、声掛けを行いながら希望に添えるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を共に選んだり、化粧水やマニキュア、メイクなどその人らしいおしゃれを支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜切りや盛り付け、配膳、食器洗い・拭きなどリビングやキッチンなど一人ひとりの好みや力を活かしながら共に行っている	毎日冷蔵庫の中を見て、利用者に相談しながら食材を選び、前と重ならないよう配慮しながら献立を立てている。利用者は台所に立ったり、テーブルの上で包丁を使い下ごしらえしたり、調理や片付けも担っている。野菜を多く摂るよう心がけ、プランターで育てた野菜が食卓に乗ることもある。利用者と職員は同じテーブルに付き、会話を弾ませながら同じ食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時や10時、おやつ時、希望時などこまめに水分補給に努めセレクトできるように支援している。食事については検食簿に記入し量やバランスに配慮している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声掛けを行っている。年に1回無料歯科検診や必要に応じて週1回の歯科往診を行い清潔保持に努めている		

洛和グループホーム音羽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、食事前や就寝前、トイレ間隔が長いときなど必要に応じて声掛けを行い自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にて個々のパターンを知り、状態に応じたトイレ誘導を行ったり、様子を見てスムーズにトイレに行けるよう支援している。利用者の羞恥心に配慮して、外から声をかけパットやおしぼりを渡す場合もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめな水分摂取、食物繊維や乳製品、果物など積極的に摂取している。10時の体操や散歩など適度な運動を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴可能であるが、前日に入浴されていない方から声掛けを行っている。希望時には可能な限り支援している	午後から夕方までの希望時間に入浴してもらっており、希望があれば午前中の中の入浴も可能である。同性介助にしたり、湯温を調整するなど、利用者が気持ちよく入れるよう支援している。拒否が見られる場合は落ち着いた気分になれる時間帯に誘導するなど工夫して入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や状況に合わせて安心して休息できるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員は薬の説明書を各自目を通して理解している。服薬についてはマニュアルに沿って支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々生活の中で力を発揮できる役割を持ち、散歩や合唱、音楽を聴くなど気分転換などの支援を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や買い物、行事などで出かけられるよう支援している。また、家族にも相談し協力を得ている。	散歩が日課となっており、神社にお参りに出かけたり、動物病院に犬を見に出かけたりしている。化粧品や菓子などの買い物にも出かけている。また外出行事も多く、敬老会を家族と共に外で開催したり、遊覧船にのったり、弁当持参で円山公園へ出かけたりと皆と一緒に楽しんでいる。	

洛和グループホーム音羽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームにてお金を管理しているが家族と相談をし、お金を持っている方もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話をしたり、手紙のやり取りができるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の壁掛けやお花を飾ったり、音楽をかけたり、廊下にはベンチなどを置き居心地良く過ごせるよう工夫している	昨年末に隣の敷地にデイサービスと共に新築し、2階をホームとしている。明るく広いリビングは季節の張り絵をかざり、居ながらにして隣の小学校の様子が見られる。畳スペースで洗濯物をたたんだり、廊下や玄関にベンチやソファを置き、休んだり1人になれる場所を確保している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには畳スペース、廊下にはベンチを置き思い思いに過ごせるスペースがある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやベット、スタンド、置物などなじみのものや好みのものを持ってきてもらいそれぞれが居心地良く過ごせるよう工夫している	各居室は日差しも良く入り、入り口には家族が用意した表札が掲げられている。希望に応じてカーペットや畳を敷くことも可能で、以前の生活に合わせ畳ベッドを持参されている方もいる。日々使っていた裁縫箱や加湿器も置かれている。人形を机に飾ったり、家族との写真やホームの広報誌を壁に飾り、居心地良く過ごされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター方式や日々の関わりの中で「できること」「わかること」を把握し、見守りや声掛けにて安全に自立した生活が送れるよう工夫している		